

今年もすくすくと育てね！

～処分場敷地内の巣箱でフクロウのヒナが孵（かえ）りました～

東京たま広域資源循環組合（管理者：東村山市長 渡部 尚）では、2月27日、フクロウが谷戸沢処分場に営巣したことをお伝えしましたが、4月1日に1羽のヒナを、2日に2羽目のヒナを確認できましたので、お知らせします。

処分場敷地内の巣箱でヒナの孵化が確認されたのは、今回で6回目となります。

フクロウなどの猛禽類が営巣・子育てすることは、処分場内及びその周辺地域の生態系の豊かさを示す指標となります。これからも、当組合では鳥類や動植物のモニタリングを継続的に行うとともに、豊かな自然環境の保全・創出に努めてまいります。



お母さんフクロウがお出かけ中のヒナたち【4月4日撮影】
（生まれたばかりのフクロウのヒナはきれいな白色をしています）

現在、フクロウは巣箱の中で子育てを行っております。5月初旬ごろには、ヒナの巣立つ姿を見ることができると考えられます。今後は、フクロウの子育て状況を温かく見守ってまいります。この子育て状況については、ヒナの巣立ちまで、逐次、循環組合のホームページに写真を掲載してまいります（ただし、アライグマなどに襲われ、営巣を放棄する可能性もあります。）。

◆ 循環組合ホームページ：<https://www.tama-junkankumiai.com/>



巣箱内でのフクロウの様子



お父さんフクロウからエサをもらうお母さんフクロウ【4月2日撮影】



生まれて間もない2羽のヒナの様子【4月2日撮影】
(巣箱内右下付近にフクロウのヒナがいます。黒い小さなものはエサとなるネズミです。)

今回、場内で撮影されたフクロウの様子